

# 子どもたちと胸に別れ



イクコママの乳がん日記 ㊦

2012年12月、入浴中に右胸のしこりに気付いたイクコさん(42)。1歳と4歳の2児の子育て中に乳がんと診断されました。「後悔のない治療」を目標に、本などで乳がんの勉強をし、主治医にたくさん質

問もしながら治療を進めてきました。約半年間の抗がん剤治療を経て、乳輪・乳頭を残す「皮下乳腺切除術」をすることに決定。いよいよ、手術当日を迎えました。(第4週に掲載)

① 抗がん剤治療中、乳房切除になった時のために、おっぴいの感謝のしるし?として新しいブーを買ったなどお手入れするようにしました。



今まで何もしてなくてごめんね...

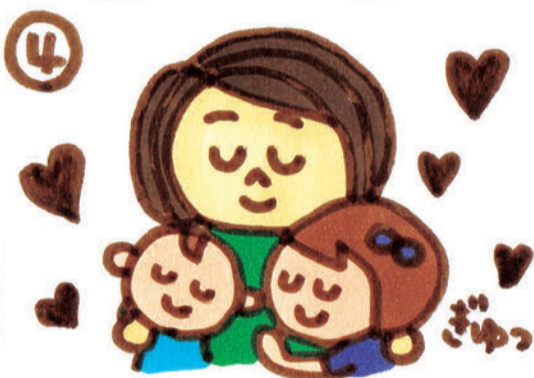
② 抗がん剤治療が終了して手術直前は、子どもたちと私がい体調をくずして病院へ行き毎日ガタバタ。



子どもたちを預けるパパの家に延期の可能性の連絡... いろいろすみません 大丈夫よ! 心強かったです。

熱があると手術は延期。延期になってほしいような... けど、いろいろ困る! 気持ちがよくわからない...

③ 入院の日の朝、リコとゴーくんは右のおっぴいにお別れのあいさつをしました。



リコもゴーくんも おっぴいが大好きでたくさん飲んで育ちました。授乳の時にかまれたこともあったけどよく頑張ってくれました。ほんとにありがとう。

⑤ 手術後 どうなるのか本を読んでわかってはいるけど超不安。泣けてくる。



病室

⑥ 手術前検査をして手術決定。行ってきます。



茶ぞボーッとした意識の中手術室へ運ばれて行きました。

## 感情押し込めないで

### 手術前に悲しみあふれ

2013年8月

朝、ドキドキで熱を測る。熱があったら手術は延期。36.9度。大丈夫!! 大急ぎでいろいろ準備。胸の写真も自分撮り。リコにもお願いして撮ってもらった。リコとゴー君に「最後だからごあいさつしようね」と触らせる。「リコもゴー君もおっぴいたくさん飲みました。今までいっぱいありがとうね」。リコはしっかりごあいさつ。ゴー君はめずらしくさっとお触り。そして入院。

翌日、手術決定。やると決まったら超不安。泣けてくる。右のおっぴいちゃん、ホントにホントにありがとう。先生は温存でも...という中、私の意志で乳輪・乳頭だけを残す手術。後悔のない治療を目標に、考えに考えて自分で決めた。大丈夫。でも、なくなるとなると、とても寂しく悲しい。そして怖い。

今までありがとう。リコもゴー君もおっぴいでしっかり育ちました。これからは左のおっぴいも大事にして、穏やかに過ごしてしていきたいな。治療はまだ続くけどね。

胸を失う恐怖と悲しみは計り知れないものがあります。長く連れ添ってきた体の一部を喪失する精神的な苦痛は、甚大だと思います。お別れの仕方も千差万別で、儀式的なことを行う人もいますが、私たち医療者側も喪失感に対する心のケアが大切だと感じています。

個人的な考えですが、悲しい時に無理に感情を押し込める必要はないと思います。泣きたい時は泣き、どこにぶつけていいかわからない怒りも医療従事者を含め、皆でシェアして乗り越えていくことが重要です。「一人で悩まないこと」が大切ではないでしょうか。

監修・玉城研太郎医師 (那覇西クリニック 乳腺外科)